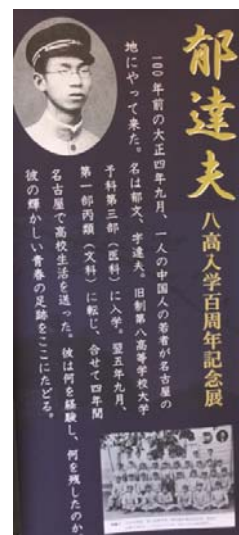


## 郁達夫 八高入学百周年記念展

いつものように、名大図書館に行くと写真のような案内があった。最初「郁達夫」とは誰なのか分からず、通り過ぎるところだった。下に「八高入学百周年」とあり、展示室に入った。第八高等学校、現在の名古屋市立大滝子キャンパスに関わる展示もあった。「郁達夫=ゆだつふ、いくたつふ、とも表記」による100年前の中国人留学生から見た、滝子界限など名古屋について知ることができた。



『ちょっと名大史 16』に「郁達夫文学碑」について次のように書かれている。まずは紹介しておこう。

郁達夫は、1896年中国浙江省富陽県の生まれで、魯迅・郭沫若らにつぐ中国近代文学の代表的な作家です。1913年来日、1915年名古屋大学の前身校である第八高等学校第三部（医科）に入学しました。翌年第一部（文科）に転部し、1919年に八高を卒業しています。

1921年に刊行された処女小説『沈淪』は、郁達夫八高時代の自伝的小説です。当時の中国人留学生の孤独や抑圧された性を率直に表現しており、中国の近代文学で性の問題を真正面に取り上げた最初の作品として評価されています。また、熱田神宮・鶴舞公園など名古屋の名所が随所に描かれており、当時の名古屋の様子もうかがい知ることができます。



1922年に東京帝国大学経済学部を卒業後に日本を離れ、中国へ帰国後は北京大学・広州大学等で教えるとともに創作活動を行いました。1936年11月に再来日し、志賀直哉・井伏鱒二・大宅壮一・林芙美子・横光利一など当時の日本文壇の著名人とも交流しています。日中戦争が始まった当初は、郭沫若らとともに抗日運動に参加しましたが、1938年にはシンガポールへ移って新聞編集や日本軍憲兵の通訳をしました。1945年の敗戦直後、日本軍憲兵に殺害されてしまいました。戦前日本の誤った時代の犠牲者の一人といえます。郁達夫文学碑は第八高等学校の同窓会である「八高会」により、八高創立90周年を記念して建てられたもので、1998年6月30日に除幕式が行われました。

(2015年10月18日)